

HiKOKI

取扱説明書

用途

- 木材や丸太の切断
- 庭木の枝打ち、伐採

ブレーキ付 コードレスチェーンソー

36 V
300 mm CS 3630DB

36 V
350 mm CS 3635DB

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、
ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書を良くお読みになり、
正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に
大切に保管してご利用ください。



本製品は日本国内用のため、日本国外で販売または使用することはできません。日本国外で使用した場合は、仕様上の性能を発揮できない恐れがあります。日本国外では、修理または保証を受けられません。

This product may be used only in Japan and should not be sold or used in any other country. Otherwise, product may not perform as intended. No authorized service or warranty is available outside of Japan.

はじめに	警告表示について……………	1
	コードレス工具の安全上のご注意…	2
	本製品の使用上のご注意……………	5
	リチウムイオン電池の使用上のご注意…	10
	各部の名称……………	12
使い方	仕様……………	13
	標準付属品……………	15
	別売部品……………	16
	各種操作方法について……………	17
その他	電池残量表示について……………	18
	1 充電当たりの作業量について…	18
	ソーチェンの取付け（交換）…	19
	ご使用前の点検と準備……………	22
	キックバックについて……………	25
	チェンブレーキについて……………	26
	木材を切断する……………	27
	切断作業上のご注意……………	30
	ソーチェンの目立て……………	31
その他	保守・点検……………	33
	保管方法……………	37
	故障診断……………	38
	ご修理のときは……………	裏表紙

警告表示について

当該製品に関する安全な使用方法、予見可能な危険の排除、使用時の危険回避などを目的に本機および取扱説明書に下記の表示をしております。
これらの表示以外に関しても十分安全に配慮してご使用ください。

	取扱説明書または本機に表示の危険、警告、注意などに従って安全に使用してください。		保護帽（ヘルメット）、保護メガネ、手袋、安全靴など防護具を着用してください。
	雨の中や湿気の多い所で使用したり、放置しないでください。		キックバックに注意してください。ガイドバー先端での作業はしないでください。
	片手で使用しないでください。		両手でハンドルを確実に握って使用してください。

⚠ 警告、⚠ 注意、注 の意味について

- ⚠ 警告** : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容にご注意。
- ⚠ 注意** : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容にご注意。
- 注** : 製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。

なお、**⚠ 注意** に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

コードレス工具の安全上のご注意

- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- 使用前に、この「安全上のご注意」すべてを良くお読みのうえ、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

⚠ 警告

- ① **専用の充電器や蓄電池を使用してください。**
弊社カタログに記載されている指定の充電器や蓄電池を使用してください。
指定以外の蓄電池を使用すると、破裂して傷害や損害を及ぼす恐れがあります。
- ② **蓄電池の端子間を短絡（ショート）させないでください。**
釘袋などに入れると、短絡（ショート）して、発煙・発火・破裂などの恐れがあります。
- ③ **蓄電池の内部に、水のような導電性の液体を入れないでください。**
発熱・発火・破裂の恐れがあります。
- ④ **作業場や保管場所の周囲状況も考慮してください。**
 - 工具本体や蓄電池は、雨の中や湿った場所で使用・放置・保管をしないでください。感電や発煙の恐れがあります。
 - 作業場は十分に明るくしてください。
暗い場所での作業は、事故の原因になります。
 - 可燃物、可燃性あるいは腐食性の液体やガスがある所での使用・充電・保管をしないでください。発火や火災の恐れがあります。
- ⑤ **保護メガネを使用してください。**
作業時は、保護メガネを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。
切削した物や粉じんが目や鼻に入る恐れがあります。
- ⑥ **加工する物をしっかりと固定してください。**
加工する物を固定するために、クランプや万力などを利用してください。
手で保持するより安全で、両手でコードレス工具を使用できます。
固定が不十分な場合は、加工する物が飛んで、けがの原因になります。
- ⑦ **次の場合は、コードレス工具のスイッチを切り、蓄電池を工具本体から取りはずしてください。**
 - 使用しない、または、準備・調整・保守・点検・修理する場合。
 - 付属品や別売部品を取付け、交換する場合。
 - その他、危険が予想される場合。
コードレス工具が作動して、けがの原因になります。
- ⑧ **不意な始動は避けてください。**
スイッチに指を掛けて運ばないでください。
コードレス工具が作動して、けがの原因になります。

⚠警告

- ⑨ 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。
この取扱説明書および弊社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメントを使用してください。事故やけがの原因になります。
- ⑩ 蓄電池を火の中に投入しないでください。
破裂して、有害物質が出る恐れがあります。

⚠注意

- ① 作業場は、いつもきれいに保ってください。
散らかった場所や作業台は、事故の原因になります。
- ② 子供を近づけないでください。
 - 作業員以外、コードレス工具に触れさせないでください。
けがの原因になります。
 - 作業員以外、作業場へ近づけないでください。けがの原因になります。
 - 安全に責任を負う人の監視または指示がないかぎり、補助を必要とする人が単独で使用しないでください。
- ③ 使用しない場合は、きちんと保管してください。
 - 乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または鍵のかかる所に保管してください。事故の原因になります。
 - 工具本体や蓄電池を、温度が50℃以上に上がる可能性のある場所（金属の箱や夏の車内など）に保管しないでください。
蓄電池劣化の原因になり、発煙、発火の恐れがあります。
- ④ 無理して使用しないでください。
 - 安全に能率良く作業するために、コードレス工具の能力に合った速さで作業してください。能力以上での使用は、事故の原因になります。
 - モーターがロックするような無理な使い方はしないでください。
発煙、発火の恐れがあります。
- ⑤ 作業に合ったコードレス工具を使用してください。
 - 小形のコードレス工具やアタッチメントは、大形のコードレス工具で行う作業には使用しないでください。けがの原因になります。
 - 指定された用途以外に使用しないでください。けがの原因になります。
- ⑥ きちんとした服装で作業してください。
 - だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、着用しないでください。
回転部に巻き込まれる恐れがあります。
 - 屋外での作業の場合には、ゴム手袋と滑り止めの付いた履物の使用をお勧めします。
滑りやすい手袋や履物は、けがの原因になります。
 - 長い髪は、帽子やヘアカバーなどでおおってください。
回転部に巻き込まれる恐れがあります。

⚠注意

- ⑦ **無理な姿勢で作業をしないでください。**
常に足元をしっかりさせ、バランスを保つようにしてください。
転倒して、けがの原因になります。
- ⑧ **コードレス工具は、注意深く手入れをしてください。**
 - 安全に能率良く作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、良く切れる状態を保ってください。損傷した刃物類を使用すると、けがの原因になります。
 - 付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。けがの原因になります。
 - 握り部は、常に乾かしてきれいな状態に保ち、油やグリースが付かないようにしてください。けがの原因になります。
- ⑨ **調節キーやスパナなどは、必ず取りはずしてください。**
スイッチを入れる前に、調節に用いたキーやスパナなどの工具類が取りはずしてあることを確認してください。付けたままでは、作動時に飛び出して、けがの原因になります。
- ⑩ **油断しないで十分注意して作業をしてください。**
 - コードレス工具を使用する場合は、取扱い方法、作業の仕方、周りの状況など、十分注意して慎重に作業をしてください。軽率な行動をすると、事故やけがの原因になります。
 - 常識を働かせてください。非常識な行動をすると、事故やけがの原因になります。
 - 疲れている場合は、使用しないでください。事故やけがの原因になります。
- ⑪ **損傷した部品がないか点検してください。**
 - 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また所定機能を発揮するか確認してください。
 - 可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他、運転に影響を及ぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
 - 破損した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
 - スイッチで始動および停止操作のできないコードレス工具は、使用しないでください。誤作動して、けがの原因になります。
- ⑫ **コードレス工具の修理は、専門店で依頼してください。**
 - サービスマン以外の方は、工具本体や蓄電池の分解・修理・改造をしないでください。発火や誤作動など、けがの原因になります。
 - コードレス工具が高温になるなど、異常に気付いたときは、点検・修理に出してください。
 - この製品は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
 - 修理は、お買い求めの販売店に依頼してください。ご自身で修理すると、事故やけがの原因になります。

本製品の使用上のご注意

先にコードレス工具として共通の注意事項を述べましたが、コードレスチェーンソーについて、次に述べる注意事項を守ってください。

⚠危険

高所での枝打ち、枝払い作業について

木の上および高所(2メートルを越える箇所)での作業は、足場が不安定になり非常に危険です。以下の内容を守り、安全に作業してください。

また、作業前に専門の技術指導を受け、十分に訓練した上で作業してください。

- ① 高所作業用機器を使用し、安定した足場を確保すると同時に安全帯(芯入り)を着用し、体をしっかり固定させてください。
- ② はしごを使用しての作業、片手持ち作業、腕を伸ばしてのチェーンソー操作は行わないでください。
作業範囲は作業者の肩から腰の高さとし、それ以外では作業しないでください。

⚠警告

- ① 保護具を着用し、きちんとした服装で作業してください。

保護具を着用しないで作業すると、飛散物が体に当たるなどけがの原因になります。

- ② 作業はゆとりを持って行ってください。また、体を冷やさないようにしてください。

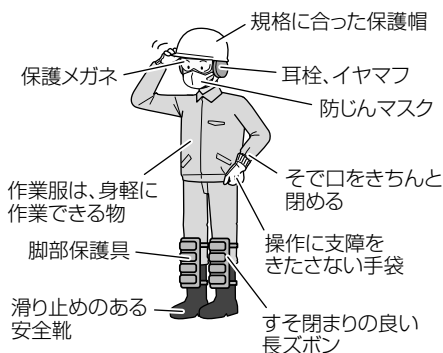
- ③ 子供や取扱説明書を良く読んでいない人、または取扱いに不慣れな人には工具を使用させたり、貸さないでください。

はじめて使用する方は、販売店や熟練者に操作方法、注意事項を良く教わって十分習得し、取扱説明書を良く読んでから使用してください。

- ④ 作業に入る前に作業手順を良く考え、事故が起きないようにしてください。

- ⑤ 風、雨、大雪、濃霧などの悪天候のとき、また落石、雪崩の恐れのある場所では使用しないでください。

悪天候により判断が鈍ったり、振動により災害を引き起こす原因になります。



⚠ 警告

- ⑥ 夜間や天候不良などの視界が悪いときは使用しないでください。
足元が不安定で、バランスを失い、事故の原因になります。
- ⑦ 始動前にガイドバーやソーチェンを点検してください。
 - ガイドバーやソーチェンにひび割れ、傷、曲がりがある物は使用しないでください。
 - ガイドバーやソーチェンが確実に取付けられているか確認してください。ガイドバーやソーチェンが割れたり、はずれたりすると事故の原因になります。
- ⑧ 作業前にロックオフボタンを押しながらでないと、スイッチが引けないことを確認してください。
故障しているときは使用を中止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
- ⑨ ソーチェンは、取扱説明書に従って正しく取付けてください。
誤った取付け方をすると、ガイドバーからソーチェンがはずれ、けがの原因になります。
- ⑩ チェンソーに装備されている各種の安全装置（ブレーキレバー、ロックオフボタン、チェンキャッチャーなど）は絶対に取りはずさないでください。
また、改造したり、固定しないでください。
- ⑪ スwitchを入れるときには注意してください。
 - 15 m 以内に人や動物を近づけないでください。
 - ソーチェンが地面、または障害物に接触していないことを確認してください。
不意な始動は、けがの原因になります。
- ⑫ キックバック防止のため、ガイドバー先端部（特にガイドバーの上部 1/4 の部分）での作業は行わないでください。また、ガイドバーの先端部を枝や地面などに触れさせないように作業してください。
- ⑬ 使用中はフロントハンドルは左手、リアハンドルは右手で確実に保持し、両足を開き安定した姿勢で作業してください。また、足場の悪い場所で作業するときは、周囲を整備し足場を確保してください。
- ⑭ 使用中は、ソーチェン、ガイドバーや回転部に手や顔などを近づけないでください。
- ⑮ 電線、ガス管などが設置してある場所では安全に十分注意してください。
- ⑯ 作業は原則として一人で行い、複数で作業するときは十分な間隔を取ってください。
特に、立ち木の伐採や斜面での作業では、木の倒れ、転がり、滑りを予測し、他の作業者に危険がないことを確認してください。
- ⑰ 他の人を 15 m 以内に近づけないでください。
また、二人以上で作業する場合も、15 m 以上はなれてください。
 - 飛散物が当たるなど、思わぬ事故の原因になります。
 - 呼び笛を準備するなど、他の作業者との連絡方法をあらかじめ決めておいてください。

⚠ 警告

- ⑱ **立ち木を伐採する前に、次のことを実施してください。**
- 伐採する前に安全な退避場所を確保する。
 - 邪魔になる障害物(枝、灌木など)をあらかじめ除去する。
 - 伐採する木の状態(幹の曲がり、枝の張りなど)、周囲の状況(隣接する木の状態、障害物の有無、地形、風向きなど)を総合的に判断して立ち木を倒す方向を決めて、伐採の手順を計画する。
- ⑲ **立ち木の伐採中は、次のことを実施してください。**
- 作業中は常に木の倒れる方向に注意する。
 - 傾斜地では、木が転がらないことを確認の上、常に山側に立って作業する。
 - 木が倒れはじめたらスイッチを切り周囲に警戒の合図を行い、直ちに安全な場所に退避する。
 - 作業中にソーチェン、ガイドバーが木に挟まれたときはスイッチを切りクサビを使用する。
- ⑳ **曲げられている枝、かかり木、裂けている木などは切断終了時の跳ね返りに注意してください。**
- できるかぎり十分な訓練と経験を積んだ専門者に依頼してください。
- ㉑ **誤って落としたり、衝撃が加わったり、破損や亀裂、変形が生じた場合は、使用しないでください。**
- ㉒ **機体を車で運搬する場合は、機体が動かないように固定してください。**
- ㉓ **次の場合はスイッチを切り、ソーチェンが動いていないことを確認し、蓄電池を工具本体からはずしてください。**
- 使用しない、または保守・修理する場合。
 - 作業場所を移動する場合。
 - ソーチェンやガイドバーやチェンケース、その他機体の準備・点検・調整・交換などを行う場合。
 - チェンオイルを補充する場合。
 - 機体に巻き付いたごみを取り除く場合。
 - 作業場所の障害物を取り除いたり、作業で発生したごみ、切りくずなどを運ぶ場合。
 - 機体を体からはずす場合、機体からはなれる場合。
 - その他、危険を感じた場合、危険が予想される場合。
- ㉔ **使用中、機体の調子が悪かったり、異常音、異常振動がしたりするときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い求めの販売店に点検・修理を依頼してください。**

警告

②5 工具本体の端子部（蓄電池取付部）に、切りくずやほこりがたまらないようにしてください。

- 使用前に、端子部に切りくず、ほこりがたまっていないことを確認してください。
- 作業中に、機体に付いた切りくず、ほこりが端子部に降りかからないようにしてください。
- 使用中断時、および使用後に切りくず、ほこりが降りかかる場所に機体を放置しないでください。

短絡（ショート）して、発煙・発火などの恐れがあります。

②6 工具本体の端子部（蓄電池取付部）に変形が生じた場合は、使用しないでください。

短絡（ショート）して、発煙・発火の恐れがあります。

②7 【事業者の方へ】

立ち木の伐採、かかり木の処理または造材の業務は、法・規則で定める特別教育を受けた人に行わせてください。

詳しくは、各都道府県の林業・木材製造業労働災害防止協会等にお問い合わせください。

関連法令	労働安全衛生法	第59条
	労働安全衛生規則	第36条第8号および第8号の2
	安全衛生特別教育規程	第10条

⚠️ 注意

- ① 使用しないときは、ガイドバーにチェンケースをし、ソーチェンがむき出しにならないように保管してください。
- ② 使用後に機体を運搬したり、保管する場合は、ソーチェンをはずすか、チェンケースを被せてください。
- ③ チェンケースを付けたまま、スイッチを入れないでください。
- ④ 材料に釘などの異物がないことを確かめてください。
- ⑤ 切り落とし寸前や切断中に材料の重みで、ガイドバーが材料に挟み込まれないように、切断する部分に近い位置を支える台を設けてください。
- ⑥ 蓄電池は確実に取付けてください。
- ⑦ 修理は専門店で依頼してください。
 - この製品は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
 - 修理は必ずお買い求めの販売店で依頼してください。
ご自身で修理すると、事故やけがの原因になります。
- ⑧ 警告ラベルが見えなくなったり、はがれたり、不鮮明になった場合は新しい警告ラベルと取り替えてください。
警告ラベルはお買い求めの販売店で依頼してください。
- ⑨ 作業に当たって、その地域の規則や取り決めがある場合はそれに従ってください。

○ 騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。
ご近所に迷惑をかけないように、規制値以下でご使用になることが必要です。
状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

リチウムイオン電池の使用上のご注意

本製品はリチウムイオン電池を使用します。リチウムイオン電池には、寿命を長くする目的で出力を停止する保護機能が付いています。

下記①、②、③の場合、本製品を使用中にモーターが停止することがあります。これは保護機能によるものであり故障ではありません。

- ① 電池残量が少なくなるとモーターが停止します。
速やかに充電してください。
- ② 工具本体が過負荷状態になるとモーターが停止する場合があります。
スイッチを切り、過負荷の原因を取り除いてください。
- ③ 蓄電池が過熱状態になるとモーターが停止する場合があります。
蓄電池の使用を中断し、工具本体より取りはずして、風通しの良い日かげなどで蓄電池を十分に冷ましてください。

再びご使用になれます。

さらに蓄電池の液漏れ、発熱・発煙・発火を未然に防ぐため、次に述べる注意事項を守ってください。

警告

- ① 蓄電池の端子部に、切りくずやほこりがたまらないようにしてください。
 - 使用前に、端子部に切りくず、ほこりがたまっていないことを確認してください。
 - 作業中に、機体に付いた切りくず、ほこりが端子部に降りかからないようにしてください。
 - 使用中断時、および使用後に切りくず、ほこりが降りかかる場所に機体を放置しないでください。
- ② 蓄電池の端子部に変形が生じた場合は、使用しないでください。また、外傷、変形の著しい蓄電池は使用しないでください。
- ③ 蓄電池に釘をさす、ハンマーでたたく、踏みつける、投げつけるなど強い衝撃を与えないでください。
- ④ 蓄電池を指定機器以外の用途に使わないでください。
- ⑤ 蓄電池を電子レンジや高圧容器に入れるなど、過熱・高圧を与えないでください。
- ⑥ 蓄電池が液漏れしたり、異臭を発したりするときは直ちに火気より遠ざけてください。
- ⑦ 強い静電気の発生する場所では使用しないでください。
- ⑧ 蓄電池の使用、充電、保管時に異臭・発熱・変色・変形、その他異常に気が付いたときは、直ちに使用を中止して、お買い求めの販売店に相談してください。

⚠️ 注意

- ① 蓄電池が液漏れして液が目に入ったときは、こすらずにすぐ水道水などのきれいな水で十分に洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。
放置すると液により目に障害を与える原因になります。
- ② 蓄電池が液漏れして液が皮膚や衣類に付着した場合は、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。
皮膚がかぶれたりする原因になる恐れがあります。
- ③ 蓄電池を一般のごみと一緒に捨てないでください。
- ④ 蓄電池は子供の手の届かない所に保管してください。
- ⑤ 蓄電池の仕様表示に従って正しく使用してください。

蓄電池はリサイクルへ

蓄電池はリサイクル可能な貴重な資源です。蓄電池や製品の廃棄の際は、リサイクルにご協力いただき、お買い求めの販売店にご持参ください。



○ 新しい蓄電池は、弊社純正品をご使用ください

弊社指定の蓄電池以外の使用や分解、改造した物（蓄電池を分解してセルなどの内蔵部品を交換した物を含みます）は、安全性や製品に関する保証はできません。

⚠️ 警告マークについて

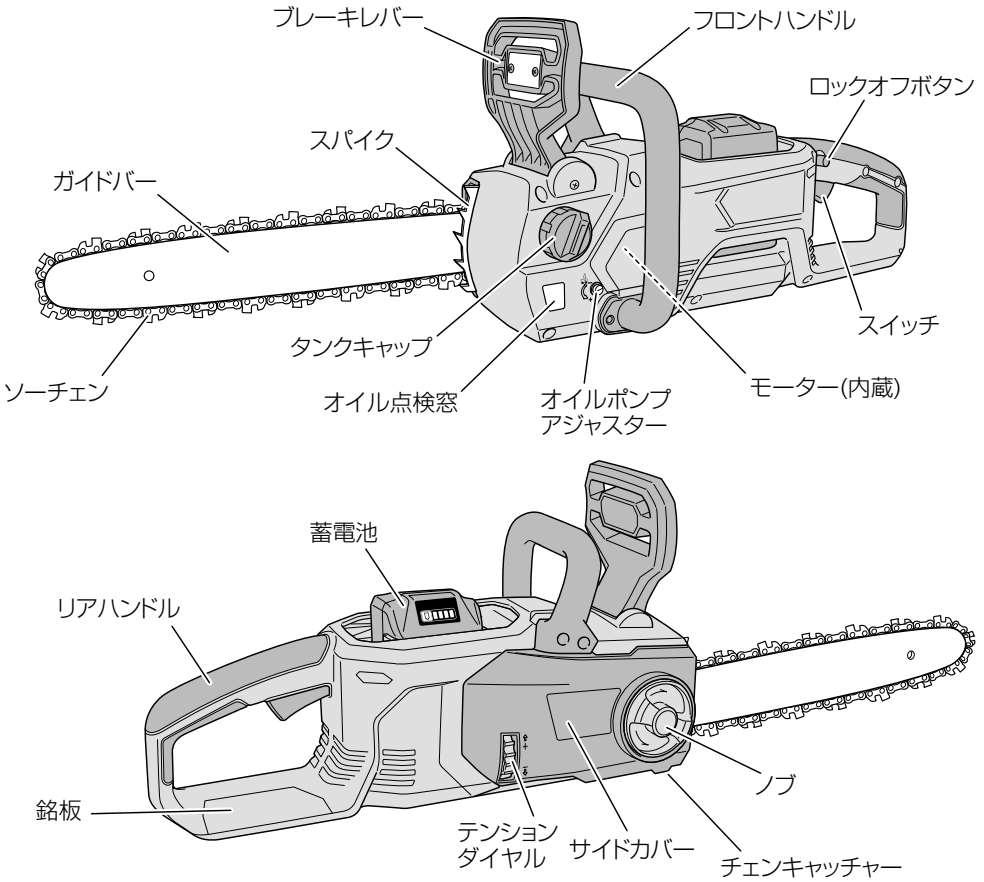


このマークのある操作・手順では、必ずスイッチを切り、蓄電池を工具本体から取りはずしてください。

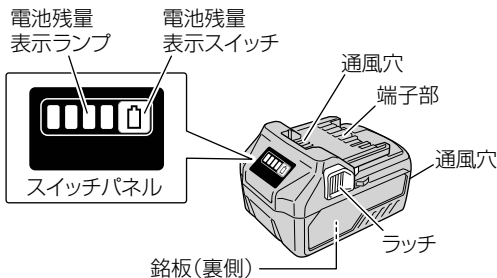
蓄電池を工具本体に装着したまま準備や点検、先端工具の交換などをすると、予期できない作動を招いて事故やけがの原因になります。

各部の名称

工具本体



蓄電池



仕 様

1. 工具体体

形 名	CS 3630DB	CS 3635DB
モ ー タ ー	直流ブラシレスモーター	
ソ ー チ ェ ン	90PX-45E	90PX-52E
バーサイズ(最大切断長さ)	300 mm	350 mm
無負荷チェーンスピード	14.9 m/s (900 m/分)	
チェーンオイル給油方式	自動給油	
チェーンオイル使用オイル	弊社チェーンソー用オイル または 市販のチェーンオイル	
工 具 本 体 寸 法 全長×全幅×全高	704×214×247 mm	760×214×247 mm
質 量	4.5 kg (BSL 36A18 装着時)	4.6 kg (BSL 36A18 装着時)
使用可能蓄電池	マルチボルトタイプ蓄電池 ^{*1}	
オイルタンク容量	100 mL	
振動3軸合成値 ^{*2}	2.5 m/s ² ^{*3}	2.4 m/s ² ^{*3}

※1: 背負式電源 (BL 36200)、バッテリーアダプタ (W36-AD)、AC/DC アダプタ (ET 36A) は使用できません。コードが体に絡まりやすい位置にあるため、作業中思わぬ事故の原因になります。

※2: 振動3軸合成値 (周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値) については、JEMA [一般社団法人日本電機工業会]
ウェブサイト: <https://www.jema-net.or.jp/Japanese/pis/powertool.html>
を参照してください。

※3: 振動3軸合成値は、EN62841-4-1 規格に基づき測定しています。

2. 蓄電池

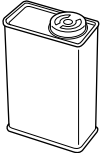



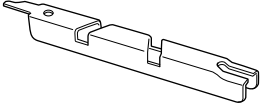
形名	BSL 36A18
種類	円筒密閉形リチウムイオン電池
電池電圧	36 V / 18 V (工具体体により自動切替)
容量	2.5 Ah / 5.0 Ah (工具体体により自動切替)
冷却	対応
使用可能コードレス製品	18 V 品 : 使用可 36 V 品 : マルチボルトタイプ蓄電池対応製品
使用可能充電器	スライド式リチウムイオン電池対応充電器 UC 36xxx、UC 18xxx シリーズ
残量表示ランプ	緑色 LED

標準付属品

品名・形名	工具体 仕様	CS 3630DB / CS 3635DB	
		XP	NN
チェンケース		1 個	1 個
ガイドバー		1 個	1 個
ソーチェン 90PX-45E (CS 3630DB) 90PX-52E (CS 3635DB)		1 個	1 個
チェンオイル (50 mL)		1 個	1 個
充電器 ●取扱い方法は、充電器の取扱説明書を確認 してください。		1 台	—
蓄電池 BSL 36A18 (本体装着)		1 個	—
電池カバー		1 個	—

別売部品 (別売部品は生産を打ち切る場合がありますので、ご了承ください。)

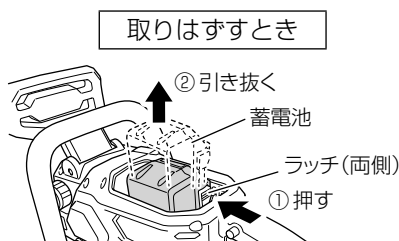
詳しくは、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

<p>チェーン用オイル (1L)</p> 	<p>丸ヤスリ 4 mm (5/32 インチ)</p> 
<p>チェーンケース</p> 	<p>ソーチェーン 90PX-45E (CS 3630DB 標準付属品) 90PX-52E (CS 3635DB 標準付属品)</p> 
<p>デプスゲージジョインター</p> 	

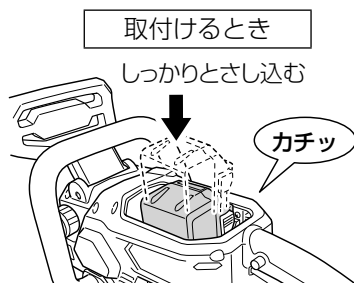
各種操作方法について

●蓄電池の取りはずし・取付け

蓄電池を工具本体から取りはずすときは、両側のラッチを押しながら、スライドさせて引き抜きます。



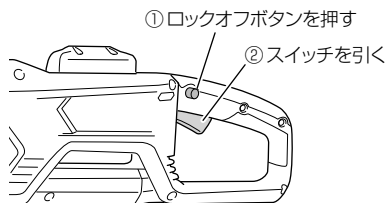
蓄電池を取付けるときは、「カチッ」と音がするまでしっかりとさし込んでください。



●スイッチの操作について

ロックオフボタンを押しながらスイッチを引くと、ソーチェンが回転します。ロックオフボタンを押さないと、スイッチは引けません。

スイッチが入った後は、ロックオフボタンをはなしても、スイッチを引いているかぎりソーチェンは回転を続けます。



注 スイッチを引いたときに、作動開始が遅れる場合がありますが、故障ではありません。作動するまでスイッチを引き続けてください。

⚠警告

ロックオフボタンを押し込んだ状態で固定しないでください。

誤ってスイッチを引いたとき不意に動き出し、けがの原因になります。

⚠注意

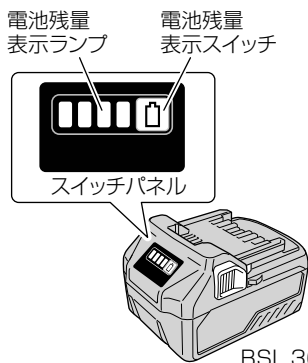
スイッチ操作前に、ブレーキレバーが解除されていることを確かめてください。(P.26「チェンブレーキについて」参照)

電池残量表示について

電池残量表示スイッチを押すとランプが点灯して、電池残量を確認することができます。

電池残量表示スイッチを押してから、約3秒後にランプは消灯します。

電池残量表示は、使用環境、蓄電池の状態などにより異なりますので目安としてください。



注 残量表示機能のある製品を使用した場合、製品側と蓄電池側の残量表示が異なる場合があります。

警告

スイッチパネルに強い衝撃を与えたり、破いたりしないでください。

ランプの点灯状態		電池残量
	点灯	75% 以上
		50% ~ 75% 未満
		25% ~ 50% 未満
		25% 未満
	点滅	0%
		高温のため出力停止 ^{*1}
		故障のため出力停止 ^{*2}

※1: 蓄電池を本体より取りはずし、十分に冷ましてください。

※2: 蓄電池の故障と考えられますので、お買い求めの販売店に相談してください。

1 充電当たりの作業量について

作業量は、使用環境、蓄電池の状態、材料のばらつきなどにより異なります。

(蓄電池 BSL 36A18 使用時)

作業内容	カット数
角材(唐松) 120×120mm	52

ソーチェンの取付け（交換）



この作業時は必ずスイッチを切り、蓄電池を取りはずしてください。

⚠注意

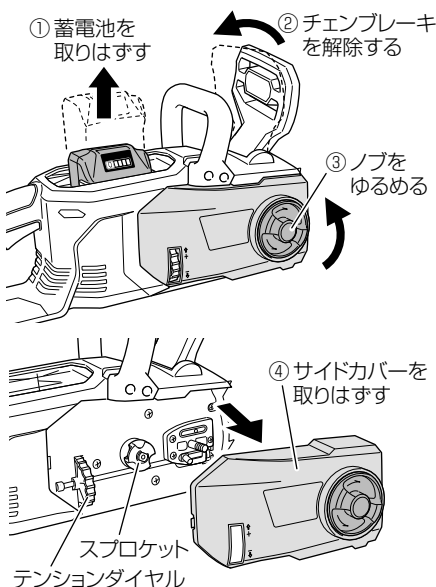
厚手の手袋を着用し、ソーチェンでけがをしないよう注意してください。

はじめて使用するときは

工場出荷時は、ソーチェンとガイドバーは別梱包になっています。

また、蓄電池が取り付けられた状態でチェンブレイキがかかっています。蓄電池を取りはずし、チェンブレイキを解除してください。（P.26「チェンブレイキについて」参照）

ソーチェンとガイドバーの取付けは、ノブをゆるめてサイドカバーを取りはずした後、③～の手順で、ソーチェンを取付けてください。



注

• ソーチェンの取りはずしの際は、オイル吐出口、オイル穴、ガイドバー溝、およびその周辺の切粉を取り除いてください。

切粉などがたまっていると、故障の原因になります。

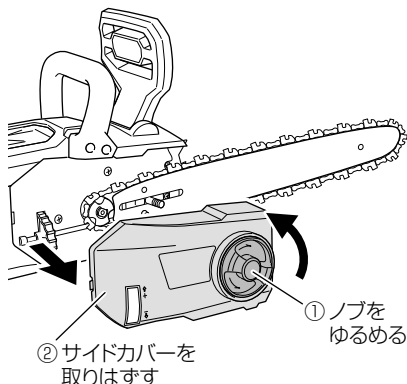
• ソーチェンは仕様で明記してあるタイプの物を使用してください。

誤ったタイプを取付けると、ガイドバーからソーチェンがはずれ、けがの原因になります。

1

サイドカバーを取りはずす

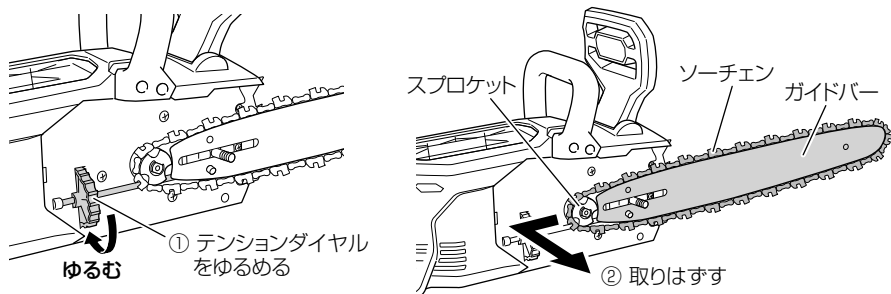
ノブをゆるめてサイドカバーをはずします。



2

ソーチェン、ガイドバーを取りはずす

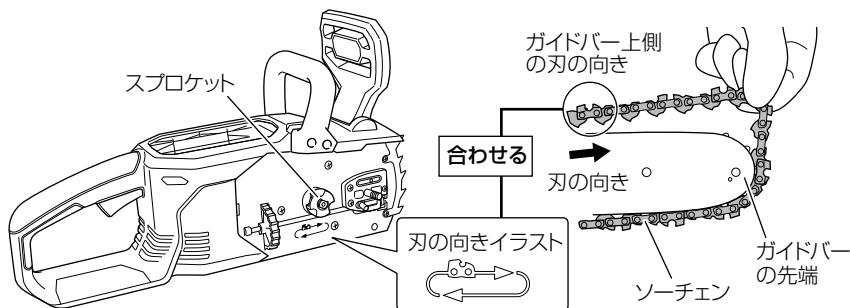
テンションダイヤルを「←」方向へ回しソーチェンの張りを少しゆるめて、スプロケットからはずしながらガイドバーと一緒に矢印の方向にゆっくり取りはずします。



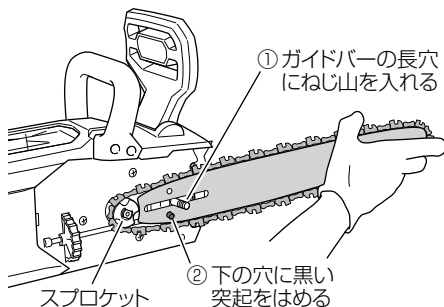
3

新しいソーチェンをスプロケットにかみ合わせる

ガイドバーの先端からソーチェンをはめ込みます。ソーチェンの向きはスプロケットの下にあるイラストの刃の向きに合わせてください。



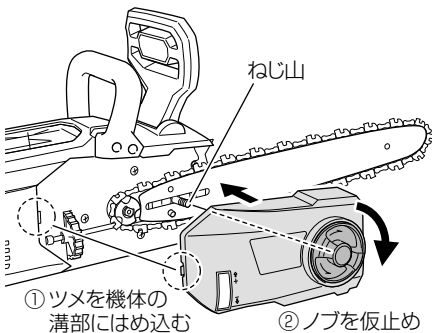
ソーチェンがガイドバーからはずれないように先端を押さえながら、右のイラストのようにソーチェンの端をスプロケットにかみ合わせ、ガイドバーを取付けます。



注 サイドカバー周辺の汚れを落としてから取付けてください。
 (P.34「サイドカバーおよびスプロケットの掃除」「ガイドバーの掃除」参照)

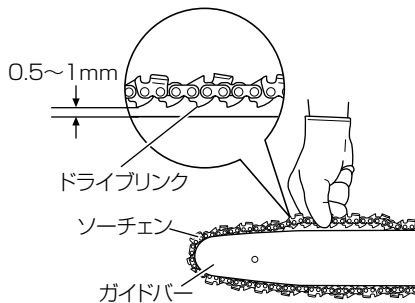
4 サイドカバーを取付ける

ソーチェーンがガイドバーからはずれないようにしながら、サイドカバーを取付けます。



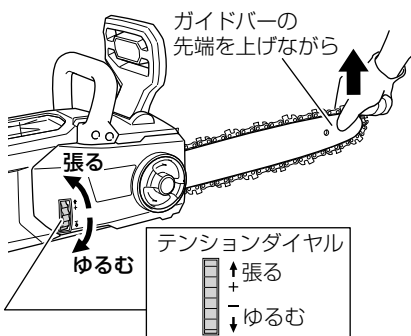
6 ソーチェーンの張りを確かめる

ソーチェーンの張りは、ガイドバーの中央付近でソーチェーンを軽く持ち上げたとき、ソーチェーンのドライプリングとガイドバーのすき間が0.5～1mm程度となるように調整します。



5 ソーチェーンの張りを調整する

- ガイドバーの先端を持ち上げながら、テンションダイヤルを回し、ソーチェーンの張り調整します。
- テンションダイヤルを「+」方向に回すとソーチェーンの張りは強くなり、「-」方向に回すとゆるくなります。

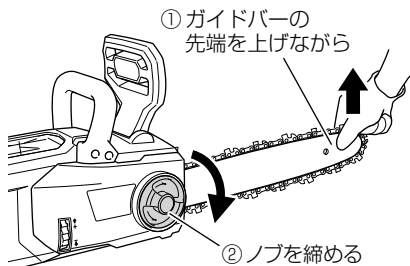


⚠ 警告

調整後、ノブがしっかりと締まっていることを確認してください。
 ゆるんでいると、けがの原因になります。

7 ノブを締める

調整が終わりましたら、ガイドバーを上を持ち上げながら、ノブをしっかりと締付けてください。



ご使用前の点検と準備

警告

ソーチェンは適切な張り具合で使用してください。

ソーチェンやガイドバーの故障や破損または、はずれてけがの原因になります。

はじめて使用するとき

工場出荷時は、ソーチェンとガイドバーは別梱包になっています。

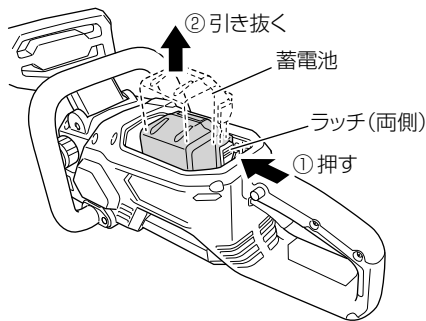
また、蓄電池が取り付けられた状態でチェンブレイキがかかっています。蓄電池を取りはずし、チェンブレイキを解除してください。(P.26「チェンブレイキについて」参照)

P.19「ソーチェンの取付け(交換)」の手順に従って、ソーチェンとガイドバーを取付けてからご使用ください。

1

蓄電池を工具本体からはずし、スイッチが切れていることを確認する

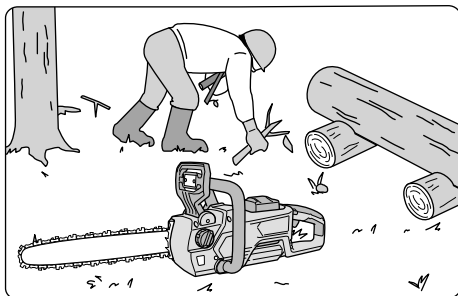
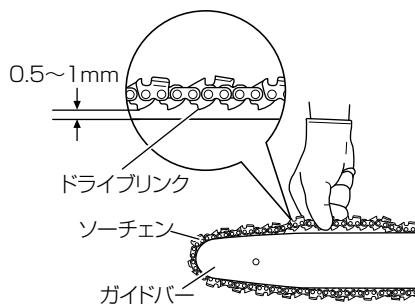
(P.17「スイッチの操作について」参照)



2

ソーチェンの張り具合を確かめる

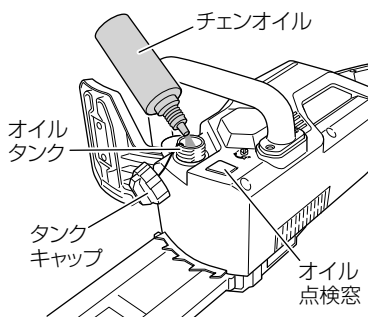
- P.21「ソーチェンの取付け(交換)」の⑤～⑦を参照し、適切に張られていることを確かめてください。
- ソーチェンが新しい間は、特に伸びやすいので、時々張り具合を点検し、調整してください。
- ノブの締付けも点検してください。



3

チェーンオイルを確認する

- 本機はチェーンオイルを入れないで出荷しています。使用前に必ず、オイルタンクに付属のチェーンオイルを入れてください。
- 作業中もオイル点検窓から時々確認して、少なくなったら補充してください。

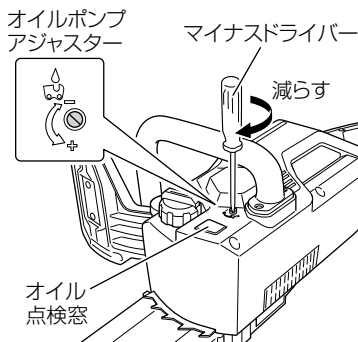


- 付属のチェーンオイルがなくなりましたら、別売部品の弊社チェーンソー用オイル、または市販のチェーンオイルを使用してください。
- チェーンオイルは自動給油です。

自動給油の吐出量は工場出荷時、最大吐出量に調整されています。

吐出量を減らすときは、オイル点検窓の右脇にあるオイルポンプアジャスターを時計方向に回してください。

オイルポンプアジャスターをマイナス側一杯まで閉じると、チェーンオイルは吐出されません。



注 ●オイルタンクの容量は約 100 mL です。

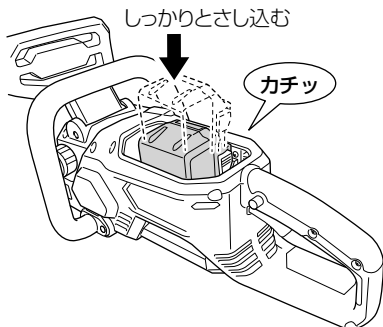
チェーンオイルがあふれたり、オイルタンク周辺にこぼれたりしないよう気を付けて給油してください。

- チェーンオイルは、余分に買い置きしておくことをお勧めします。
チェーンオイルがない状態で作業を続けると、ソーチェーンの焼き付きや、モーター故障の原因になります。
- オイルタンクにごみなどが入らないように気を付けてください。
ごみなどの異物が入ると、故障の原因になります。
- 本機は構造上、タンクに残ったチェーンオイルが漏れることがあります。故障ではありませんが、保管場所が汚れることがありますので、注意してください。
保管するときは、オイルタンク内のオイルを抜いて空にし、機体の下にはオイルがついても良い物を敷いてください。
- オイル補充は、稼働時間 15 分を目安に行ってください。
(※切断使用条件により異なります。)

4

蓄電池を取付ける

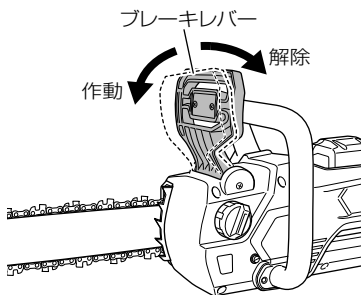
下図の向きで、「カチッ」と音がするまで、しっかりとさし込んでください。



5

チェンブレーキの作動を確かめる

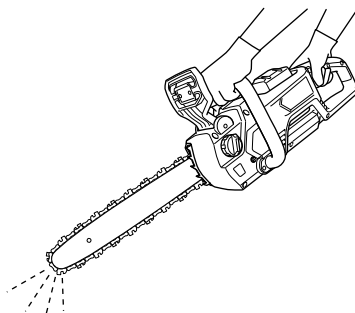
作業を始める前に、チェンブレーキが作動するか確かめます。
(P.26「チェンブレーキについて」参照)



6

チェンオイルの吐出を確かめる

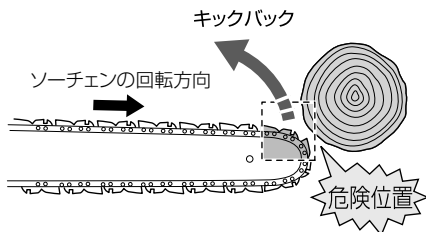
- スイッチを入れるとソーチェン、ガイドバーに自動的にチェンオイルが給油されます。
- 2～3分回転させてもオイルが出ない場合には、オイルの吐出口周りに切粉がたまっていないか確認してください。
(P.34「チェンオイル吐出口の清掃」参照)
(P.23 ㉓「チェンオイルを確認する」参照)



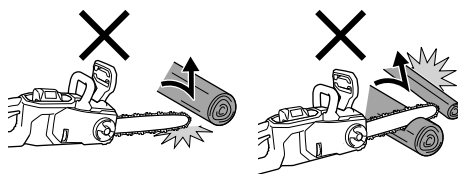
注 チェンブレーキが正常に作動しない場合は、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

キックバックについて

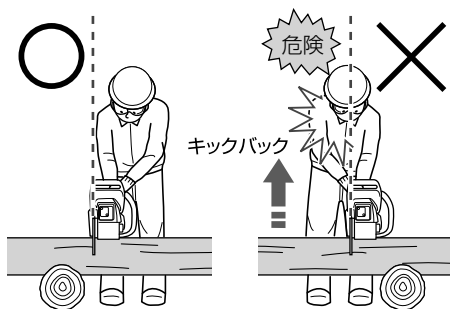
ガイドバー先端部の上半分が木材に触れると、ソーチェンの回転でガイドバー先端部が木材を駆け上がる力が働き、作業者の上半身に向かって跳ね返すキックバックが発生します。



ガイドバーの先端が、切り落とす枝の後ろにある丸太や小灌木にぶつかってキックバックを起こすことがあります。裏側にそのような物がないか良く確認してから作業をしてください。



万一キックバックが発生しても、危険性を最小限にするため、左手でフロントハンドル、右手でリアハンドルを持って作業してください。体の芯（頭部）に跳ね返ることが避けやすくなります。



チェンブレイキについて

⚠警告

- チェンブレイキは緊急時の停止装置ですが万全ではありません。常にキックバックが発生しないように注意しながら作業してください。
- チェンブレイキは緊急時に使用する物です。むやみに使用しないでください。
- チェンブレイキは切りくずなどが詰まって動きが悪くならないように、ブレーキレバーの周辺をこまめに手入れをしてください。(P.35「ブレーキレバーの掃除」参照)
- チェンブレイキは、安全にご使用いただくための重要な装置です。作業前にブレーキが作動することを確認してください。
チェンブレイキの作動が不確実なときは、お買い上げの販売店に修理を依頼してください。

チェンブレイキはキックバックなどが発生したとき、緊急にソーチェンの動きを停止し、危険を少なくするための装置です。(P.25「キックバックについて」参照)

ブレーキレバーを矢印の方向に押しと、チェンブレイキが作動し、ソーチェンが停止します。スイッチをはなしブレーキレバーを戻せば解除されます。

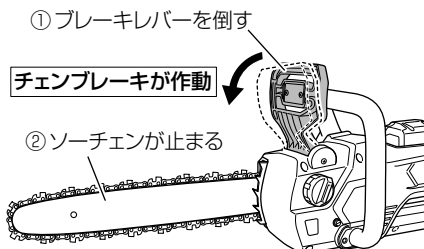
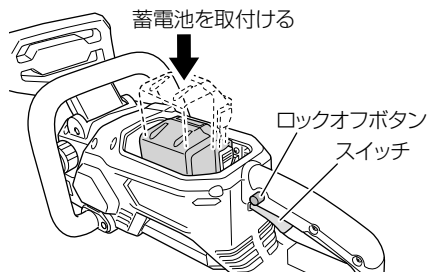
⚠注意

チェンブレイキは通電状態で作動します。チェンブレイキの確認は辺りに人のいない場所で、また障害物がないことを確かめて行ってください。

1 蓄電池を工具本体に取付けて、ロックオフボタンを押しながらスイッチを入れます。

2 ソーチェンが回転したら、ブレーキレバーをソーチェン側に押します。

3 ソーチェンが止まれば、チェンブレイキは正常に作動しています。スイッチをはなし、ブレーキレバーを元に戻すと、ブレーキが解除されます。



木材を切断する

- 切り方の基本
- 枝落とし
- 玉切り
- 立ち木の伐採作業

⚠ 警告

使用中は、両手で確実にハンドルを保持してください。

注 オイルタンクが空にならないよう、早目にチェンオイルを補給してください。

⚠ 注意

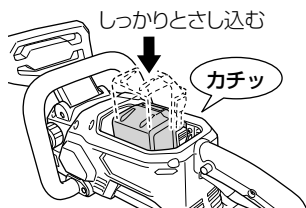
- スイッチを入れるとき、ソーチェンが材料や他の物に当たっていないことを確認してください。
- 使用中、ソーチェンが別の材料や他の物に触れないように注意してください。また、切り終わりのとき、地面に接触しないよう注意してください。

1 スイッチが切れていることを確かめる

スイッチが入っているのを知らずに蓄電池をさし込むと、不意に機体が起動し、思わぬ事故の原因になります。

2 蓄電池を取付ける

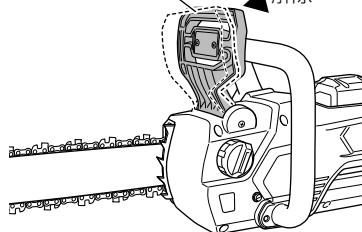
下図の向きで、「カチッ」と音がするまで、しっかりとさし込んでください。



3 チェンブレイキが解除されていること確かめる

チェンブレイキが作動していると、起動しません。

ブレーキレバー



4 スイッチを入れる

ソーチェンが木材に触れない状態でスイッチを入れ、ソーチェンのスピードが上がってから切断を始めます。

注 スイッチを引いたときに、作動開始が遅れる場合がありますが、故障ではありません。

作動するまでスイッチを引き続けてください。

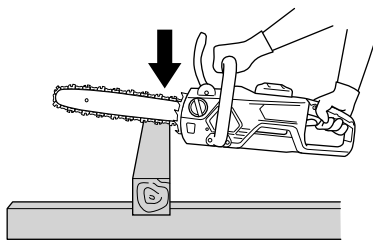
●基本の切断

切断時機体を無理に押し付けても早く切れません。モーターに無理をかけ、能力も悪くなるばかりか、モーターやソーチェン、ガイドバーを傷め故障の原因となります。ソーチェンの速度が落ちない範囲で使用してください。

特に、ソーチェンが止まる（ロックする）ような使い方はけがや故障の原因になります。

細い木材の切断

ガイドバーのつけ根付近を木材に軽く押し付けて切断します。



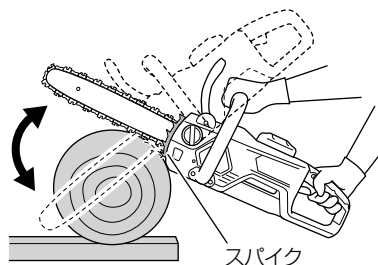
⚠警告

木材の下側から切り込みを入れる場合、ソーチェンを木材に強く当てないでください。

機体が押し戻され、けがの原因になります。

太い木材の切断

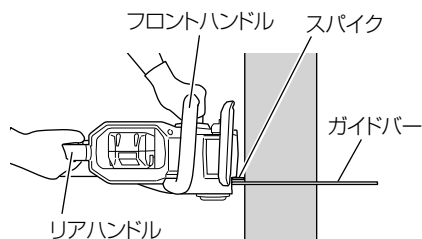
スパイクを切断する木材に当て、スパイクを支点として、テコ運動をしながら切断します。



木材を水平に切断

ガイドバーが下側になるよう機体を右側に倒した状態で、フロントハンドルの上側を左手で持ちます。

スパイクを使用する場合は、ガイドバーを水平にしてスパイクを木材に当て、スパイクを支点としてリアハンドルを右に回すようにして切り込みます。

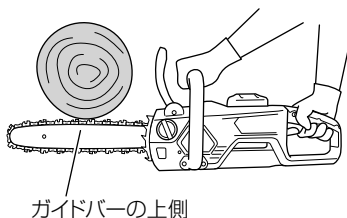


木材の下側に切り込みを入れる

ガイドバーの上側を木材に軽く当てます。

ガイドバー先端部での切断はしないでください。キックバックによるけがの原因になります。

(P.25「キックバックについて」参照)



● 枝落としと玉切り

⚠ 警告

傾斜地で作業する場合は、木材の上方で作業してください。

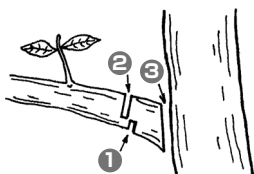
⚠ 注意

切断の際に、ガイドバーが挟まれないように注意してください。

立ち木の枝落とし

太い枝は、まずつけ根から少しはなれた所を切り落とします。

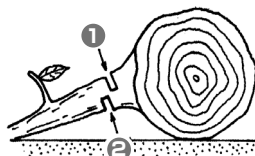
- ① 下側から3分の1くらい切り込み、
 - ② 上側から切り落とします。
- 必要に応じて最後に、残りの部分を
- ③ つけ根から切り落としてください。



倒れた木の枝落とし

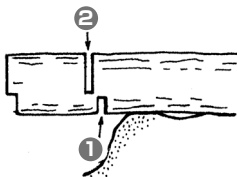
地面に当たっていない枝から切り落とし、その後地面に当たっている枝を切り落とします。

地面に接触している太い枝は、① 上側から半分くらい切り込み、② 下側から切り込み、枝を落とします。



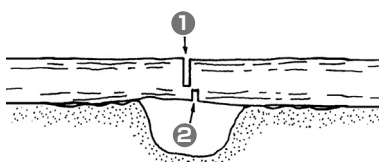
先端部分の切断

- ① 下側から3分の1くらい切り込み、
- ② 上側から切り落としてください。



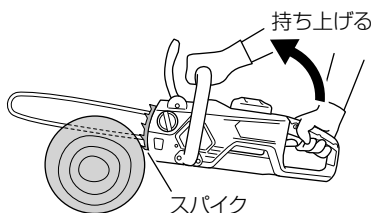
くぼみを利用した切断

- ① 上側から3分の2くらい切り込み、
- ② 下側から切り通してください。



横たわっている木材の切断

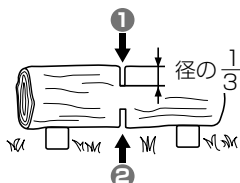
木材の安定に注意してください。スパイクを木材に当て、このスパイクを支点としてハンドルを持ち上げるようにして切ると楽に作業できます。



木材が両端で支えられている場合

- ① 上側から3分の1くらい切り込み、
- ② 下側から切り通してください。

上側からだけで切断しようとする、切り口にガイドバーが挟まれることがあります。



● 立ち木の伐採作業

⚠ 警告

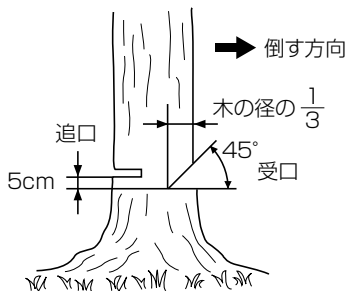
木が倒れる方向を良く確認してから、退避場所へ退避してください。

⚠ 注意

- 切断の際に、ガイドバーが挟まれないように注意してください。
- 傾斜地で作業する場合は、木の倒れる方向に注意してください。

立ち木の伐採

- ① 木の形状や周囲の状況を考慮し、木を倒す方向を決めます。
- ② 木の周りの障害物を取り除くと同時に安全な退避場所を決めておきます。
- ③ はじめに倒そうとする側に受口を切り込みます。受口は木の直径 $\frac{1}{3}$ くらいが適当です。
- ④ 受口の反対側で受口の下面より 5 cm 程度高い位置より追口を切り込みます。
- ⑤ 木が倒れはじめたら、スイッチを切り、あらかじめ決めておいた退避場所へ退避します。



切断作業上のご注意

● 高負荷作業や連続作業について

本機はモーターおよびモーターの駆動制御を行っている電子部品を保護するため、温度保護回路が搭載されています。

無理に押し付けての高負荷切断や連続切断を行うと、機体の温度が上昇するため温度保護回路が作動し、自動停止する場合があります。

その際は機体を十分に冷ましてください。温度が下がれば再び使用することができます。

また、連続的に作業する際は、蓄電池の交換時に機体を 15 分程度休ませてから使用してください。

● 機体の保持と押し付け力について

機体は両手で確実に保持してください。また、必要以上に押し付けしないでください。モーターに無理をかけ、能力も悪くなるばかりか、モーターやガイドバーを傷め故障の原因になります。

特に、ソーチェンが止まる（ロックする）ような使い方は、けがや故障の原因になります。

ソーチェンの目立て



この作業時は必ずスイッチを切り、蓄電池を取りはずしてください。

ソーチェンの切れ味が悪くなると、モーターや機体の各部に無理をかけ、能率も悪くなります。

本機的能力を発揮するためには、ソーチェンをまめに手入れし、切れ味の良い状態にしておくことが必要です。

警告

ソーチェンを取扱うときは、厚手の手袋を着用してください。

注 目立ておよびデプスゲージの調整は、ソーチェンを機体に取付けたまま、ガイドバーの中央部で行ってください。

●目立て

ソーチェンの目立ては丸ヤスリと平ヤスリを使用します。(丸ヤスリは別売部品です。平ヤスリは市販品をお使いください。)

丸ヤスリはカッター部の研削に、平ヤスリはデプスゲージの研削に使用します。

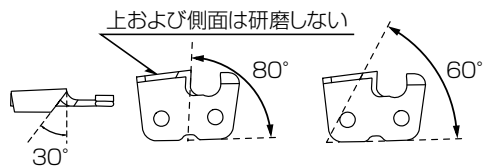
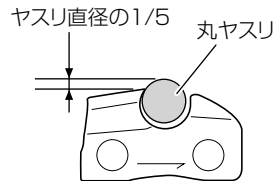
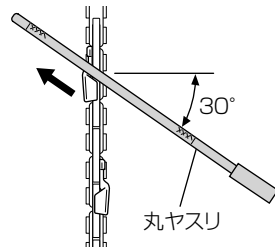
丸ヤスリは直径 4 mm を使用します。カッター部の研削は丸ヤスリの直径の 1/5 を上部に出して行います。

上刃目立て角は 30° です。丸ヤスリのグリップ側を前方に軽く押し出すように研削します。

手前に戻すときは、丸ヤスリがソーチェンに触れないようにしてください。

左右のカッターが均等になるようにヤスリをかけてください。

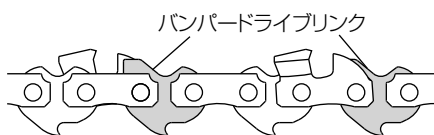
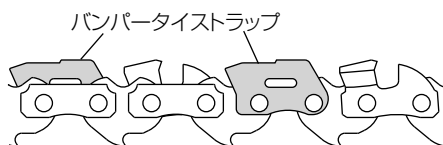
すべてのソーチェンの角度がそろっていないと、曲がって切れることがありますので注意してください。



● デブスゲージの調整

⚠ 警告

- バンパータイストラップ、バンパードライブリンクの上部にヤスリをかけたり、変形させたりしないでください。
- デブスゲージの調整は、指定の寸法、形状にしてください。
キックバックの危険性を高め、けがの原因になります。



デブスゲージはカッターが木材にくい込む深さを調整する役割をしますので、デブスゲージを全部一定にそろえることが大切です。

刃の目立てで2～3回に1回は、必ずデブスゲージをチェックしてください。

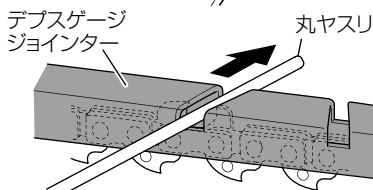
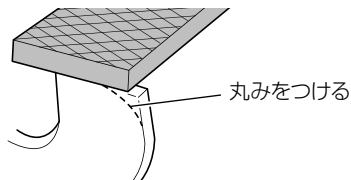
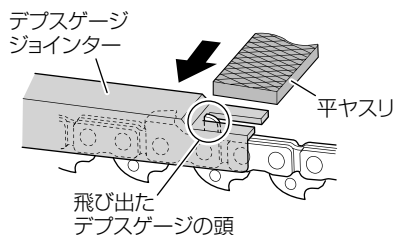
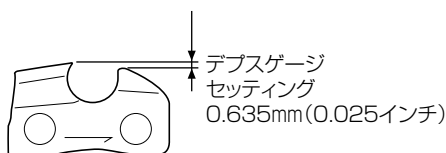
デブスゲージジョインターをソーチェンの上に乗せ、溝の部分からデブスゲージをのぞかせ、デブスゲージジョインターから出ている部分を平ヤスリですり落としてください。(デブスゲージジョインターは別売部品です。平ヤスリは市販品をお使いください。)

デブスゲージをすり落としたら、必ずデブスゲージの前側を元のように丸みをつけてください。

ソーチェンの目立てが終わったら、チェーンオイルの中に浸してヤスリ粉を洗い落としてください。

ヤスリ粉が詰まったまま使用すると、ソーチェンやガイドバーが早く磨耗します。

デブスゲージジョインターは、丸ヤスリでの目立てにも使用できます。



保守・点検

⚠ 警告

- 点検・お手入れの際は、スイッチを切り、蓄電池を工具本体から取りはずしてください。
- エアガンなどを用いて掃除する際には、保護メガネと防じんマスクを使用してください。
排出された切りくずを吸い込んだり、目に入る可能性があります。

⚠ 注意

手袋を着用し、ソーチェンでけがをしないよう注意してください。

● 機体の点検

各部品部の取付けに、ガタつきやゆるみがないか定期的に点検してください。ゆるんだまま使用すると、けがなど事故の原因になります。異常がある場合は、お買い求めの販売店に相談してください。

● 清掃する

機体が汚れたときは、石けん水に浸した布を良く絞ってからふいてください。ガソリン、シンナー、ベンジン、灯油類はプラスチックを溶かす作用があるので使用しないでください。

● ソーチェンの点検

- ソーチェンを点検し異常がある場合は、P.19「ソーチェンの取付け（交換）」に従い、新品と交換してください。
- ソーチェンの張りを点検し、正しく張られていない場合は、P.21の⑤からの手順で調整してください。
- 切れ味が悪くなったらそのまま使用せず、P.31の「ソーチェンの目立て」を参照し、目立てをしてください。
- 使用後はさび止めのため、ガイドバーとソーチェンに十分チェーンオイルを回してください。

● モーターの取扱いについて

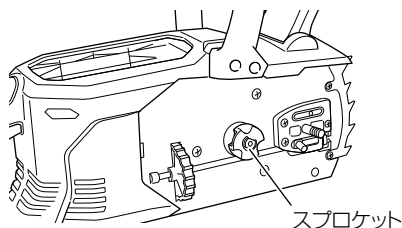
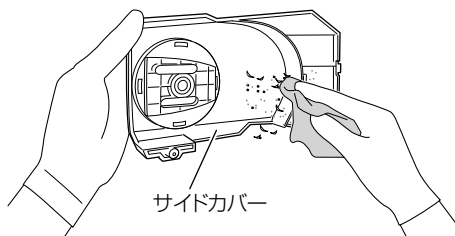
モーター（内蔵）(P.12「各部の名称」参照)に、油や水が浸入しないよう十分に注意してください。

注 ごみやほこりを排出するため、定期的に、モーターを無負荷運転させてください。モーター部にごみやほこりがたまると、故障の原因になります。

● サイドカバーおよびスプロケットの掃除

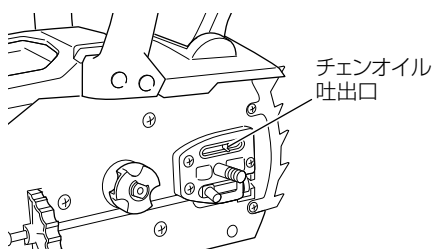
注 サイドカバー、スプロケット、チェーンオイル吐出口、ガイドバーの掃除は、P.19「ソーチェーンの取付け（交換）」の手順に従い、ソーチェーンを取りはずして行ってください。

中にたまった切りくずを除去して掃除してください。



● チェンオイル吐出口の掃除

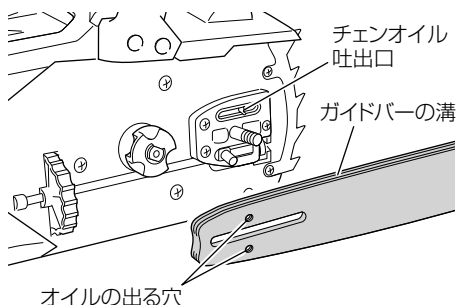
チェーンオイル吐出口は、サイドカバー、ガイドバーを取りはずし、掃除してください。



● ガイドバーの掃除

ガイドバーの溝やオイルの出る穴に切粉などが詰まると、オイルが回らなくなり故障の原因になります。

使用後およびソーチェーンの交換時などにはガイドバーをはずし、溝などに入った切粉を取り除いてください。(P.19「ソーチェーンの取付け（交換）」)

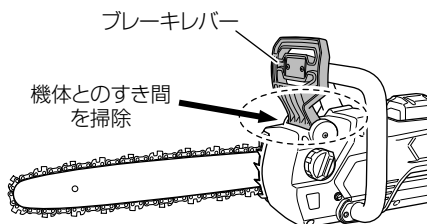


● ブレーキレバーの掃除

ブレーキレバーは緊急時にチェーンの動きを止める大事な部分です。

機体とのすき間の切りくずは、ブラシなどで取り除いてください。

また、作業前には必ずチェンブレーキの作動を確かめてください。

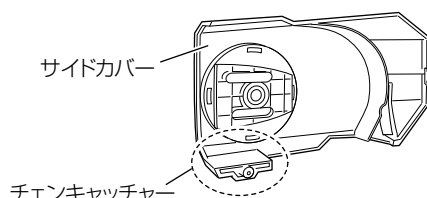


● チェンキャッチャーの点検

チェンキャッチャーはソーチェーンがはずれたり、切れたりした場合、ソーチェーンが作業者の体に当たることを極力防ぐための物です。

チェンキャッチャーは、サイドカバーと一体構造になっています。

チェンキャッチャーが破損していないか点検してください。



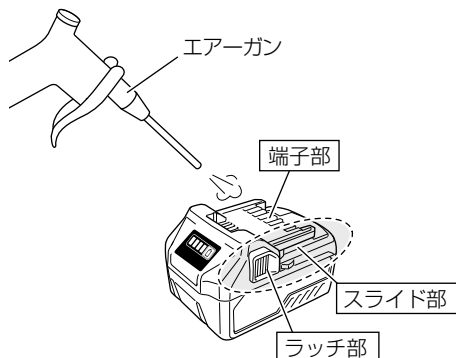
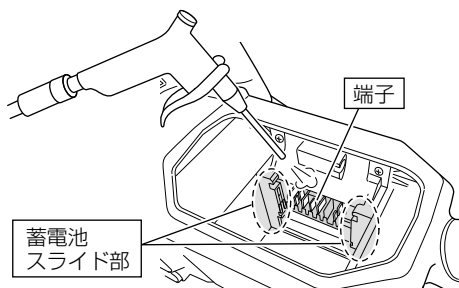
● 蓄電池取付部・蓄電池の掃除について

使用後、下図各部に切りくずが付着することがあります。

定期的にブラシやエアガンなどで、切りくずを落とすように掃除してください。

注 掃除後、工具本体と蓄電池がスムーズに脱着することを確認してください。

注 切りくずが付着したまま使用すると、使用中に蓄電池が落下するなど、事故の原因になります。
また、蓄電池と端子の接触不良や故障する原因になります。



● リチウムイオン電池の輸送について

リチウムイオン電池を輸送する場合、次の点に注意してください。

⚠ 警告

輸送会社にリチウムイオン電池を含む荷物であること、および電力量を伝えて、輸送会社の指示に基づいた手続きを行ってください。

- 電力量が100 Whを超えるリチウムイオン電池の場合は、輸送貨物の分類上、危険物扱いとなり、特別な申請等が必要になります。
- 海外へ輸送する場合、国際法令および輸送先国の規制に従う必要があります。

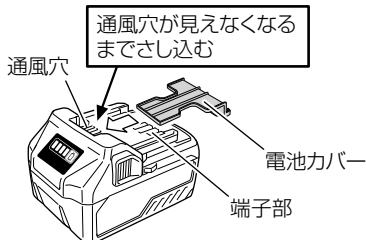


● リチウムイオン電池の保管について

⚠ 警告

リチウムイオン電池の端子部に導電性のある異物が入り込むと、短絡(ショート)して発熱・発煙・発火する恐れがありますので、保管するときは、以下の内容を必ず守ってください。

- 収納ケースに導電性のある切りくずや釘、針金や銅線などの線材を入れないでください。
- 短絡(ショート)するのを防ぐため、蓄電池は工具本体にさし込むか、電池カバーを取付けて保管してください。



- 注** リチウムイオン電池を保管するときは、満充電にして保管してください。蓄電池の残量が少ない状態で長期間(3か月以上)保管すると蓄電池が劣化し、使用時間が著しく短くなる、または充電できなくなる恐れがあります。使用時間が著しく低下した蓄電池でも、充電と使用を2～5回繰り返すと使用時間が回復する場合があります。充電と使用を繰り返しても使用時間が極端に短い場合は、蓄電池の寿命が尽きたとお考えいただき、新しい蓄電池をお買い求めください。

保管方法

- 各部を十分に清掃し金属部にはさびないように防錆剤を薄く塗ってください。
- 長期間(1か月以上)保管するときは、チェーンオイルを抜き取ってください。
- 損傷箇所がある場合は必ず修理してから保管してください。
- チェーンソーを移動、保管する場合は安全のため、必ず標準付属のチェンケースを取付けてください。

その他、下記のような場所は避け、温度が50℃未満で乾燥した安全な場所に保管してください。

注 ●お子様の手が届く場所、持ち出せる場所

- 軒先など雨がかかる場所、湿気のある場所
- 温度が急変する場所、直射日光の当たる場所
- 引火や爆発の恐れがある揮発性物質の置いてある場所
- 本機は構造上、パイプやガイドバーに残留したチェーンオイルがしみ出ることがあります。故障ではありませんが、保管場所が汚れることがありますので、注意してください。

保管するときは、オイルタンク内のオイルを抜いて空にし、機体の下にはオイルがついても良い物を敷いてください。

故障診断

「故障診断」で対応できない場合は、お買い上げの販売店に相談してください。
また、蓄電池が原因の場合もありますので、充電器と蓄電池を組で持参してください。

状況	原因	対策
ソーチェンが ・動かない ・動きが悪い	電池残量がない	蓄電池を充電してください。
	蓄電池のさし込みが確実でない	蓄電池を引き抜いて、工具本体の電池挿入口から異物が混入していないか確認してください。 また、蓄電池の端子部に汚れ等が付着していないか確認してください。 また、蓄電池は「カチッ」と音がするまで確実にさし込んでください。
	チェンブレーキが作動している	ブレーキレバーを手前に引いて解除してください。
	ソーチェンの張りがきつい	ソーチェンの張り具合を確認して、きつい場合は、張りをゆるめてください。
	ソーチェンがスプロケットからはずれている	スプロケットにソーチェンが正しくセットされているか確認してください。
	サイドカバー内に… →切粉が詰まっている →異物が引っ掛かっている	サイドカバー内を清掃してください。
	ガイドバーの溝に… →切粉が詰まっている →油が回らない	ガイドバーの溝やオイル穴を清掃してください。 オイルタンクにオイルが入っているか確認して、なくなっていたら補充してください。
	作動する前にスイッチをはなした	作動を開始するまでスイッチを引いてください。作動開始が遅れることがありますが、故障ではありません。
突然止まった	過負荷になった	大きな負荷を与えた原因を解消してください。
	蓄電池または工具本体が過熱状態になった	蓄電池および工具本体を十分冷ましてください。
	チェンブレーキが作動している	ブレーキレバーを手前に引いて解除してください。
切れ味が悪い	ソーチェンが… →摩耗、刃こぼれしている →さびている	ソーチェンを目立てしてください。 摩耗、刃こぼれがひどいときは、新しいソーチェンと交換してください。
	ソーチェンの向きが逆になっている	正しい向きに付け直してください。
	ソーチェンの張りがゆるい	ソーチェンの張りを確認して、ゆるい場合は張りを強めてください。
チェンオイルが ・出が悪い ・出ない (焼き付きを起こす)	オイルタンク内にチェンオイルが少ない	チェンオイルを入れてください。
	チェンオイル吐出口が詰まっている	掃除してください。
	オイルポンプアジャスターがマイナス側一杯まで閉じている	プラス側に回して適量のチェンオイルが出るように、調整してください。
蓄電池が取付かない	指定以外の蓄電池を取付けようとした	蓄電池はマルチボルトタイプを使用してください。

ご修理のときは


修理・お手入れ・お取扱いのご相談は、まずお買い求めの販売店にご依頼ください。
転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認のうえ、お近くの営業拠点へ
お問い合わせください。

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号 (NO.) などを下欄にメモしておく、修理を
依頼されるとき便利です。

お買い上げ日	年	月	日	製造番号 (NO.)
販売店 (TEL)				

全国営業拠点

お客様相談センター ※土・日・祝日・弊社休業日を除く 9:00～12:00, 13:00～17:00	
●フリーダイヤル  0120-20-8822	※携帯電話からはご利用になれません。 携帯電話からはお近くの営業拠点にお問い合わせください。 ※長くお待たせする場合があります。 お急ぎのときは、お近くの営業拠点に直接お問い合わせください。

●営業本部 TEL (03) 5783-0626	●北陸支店 TEL (076) 263-4311
●北海道支店 TEL (011) 786-5122	●関西支店 TEL (0798) 37-2665
●東北支店 TEL (022) 288-8676	●中国支店 TEL (082) 504-8282
●関東支店 TEL (03) 6738-0872	●四国支店 TEL (087) 863-6761
●中部支店 TEL (052) 533-0231	●九州支店 TEL (092) 621-5772

■営業所の移転等により、上記電話番号に連絡がとれない場合は、
下記のアドレスにアクセスすることで、最新の全国営業拠点
をご確認いただけます。

<https://www.hikoki-powertools.jp/relation/sales.html>



バーコードリーダー機能付きの
携帯端末より読み取ることで、
最新の全国営業拠点をご確認
いただけます。



工機ホールディングス株式会社

〒108-6020 東京都港区港南2丁目15番1号 (品川インターシティA棟)
営業本部 TEL (03) 5783-0626 (代)

電動工具ホームページ — <https://www.hikoki-powertools.jp>